

令和4年1月21日

相馬方部衛生組合管理者
相馬市長 立谷 秀清 様

新公立相馬総合病院改革プラン評価委員会
委員長 只野 裕一

令和2年度新公立相馬総合病院改革プラン実施状況点検評価報告書

新公立相馬総合病院改革プランの令和2年度実施状況について、令和3年11月26日、12月17日及び令和4年1月21日に評価委員会を開催し点検評価を実施したので、その結果を次のとおり報告する。

記

1 令和2年度公立相馬総合病院事業会計決算状況

令和2年度公立相馬総合病院事業会計決算は、病院事業収益4,069百万円、病院事業費用3,921百万円で、差し引き148百万円の純利益を計上している。

令和2年度決算状況を新改革プランの収支計画と照合すると、病院事業収益は、収入見込額3,894百万円に対し実績額は見込額を175百万円上回るとともに、病院事業費用は、支出計画額4,050百万円に対し実績額は見込額を129百万円下回ったことから、収支計画においては156百万円の純損失を見込んでいたが、実績においては148百万円の純利益を計上する結果となっている。

なお、収支計画において純損失を見込んでいたものが純利益を計上することとなった要因は、患者減少による入院・外来収益の落ち込みを補うため構成市町から特別負担金180百万円を受けたことなどによるものである。

また、主なる収入、支出項目の新改革プラン見込額と実績額との乖離理由は、次のとおりである。

(収入)

- ① 医業収益のうち入院・外来患者の料金収入は3,128百万円と見込んだが、実績においては、入院・外来患者とも患者単価は見込単価を上回ったものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により計画人員をそれぞれ下回ったため、365百万円の減収となった。
- ② 医業外収益のうち国県補助金は10百万円と見込んだが、実績においては、新型コロナウイルス感染症関連補助金等の増加があったことから、231百万円の

増収となった。

(支 出)

- ③ 医業費用のうち職員給与費は1,795百万円と見込んだが、医師、看護師職員給与費が支出見込額を下回ったことなどから、119百万円の減少となった。
- ④ 医業費用のうち材料費は771百万円と見込んだが、診療報酬改定に伴う薬価削減、使用見込患者数の減少等により、105百万円の減少となった。

2 新公立相馬総合病院改革プラン経営指標の数値目標及び実績

(1) 新改革プランの令和2年度経営指標の数値目標及びその実績値は、次のとおりである。

なお、数値目標のうち「経常収支比率」外8指標は目標値を達成したが、「医業収支比率」外6指標については目標値を達成できなかった。

	令和2年度 (目 標 値)	令和2年度 (実 績 値)	比 較
経常収支比率(%)	96.2	99.2	3.0
医業収支比率(%)	85.6	80.9	▲4.7
資金不足比率(%)	3.6	10.4	6.8
材料費対医業収益比率(%)	23.3	22.5	▲0.8
薬品費対医業収益比率(%)	12.5	11.1	▲1.4
委託費対医業収益比率(%)	11.9	12.3	0.4
職員給与費対医業収益比率(%)	54.2	56.6	2.4
後発医薬品使用割合(%)	70.0	79.1	9.1
1日当たり入院患者数(人)	150.0	120.5	▲29.5
入院単価(円)	37,500	40,053	2,553
1日当たり外来患者数(人)	498.0	386.2	▲111.8
外来単価(円)	8,880	10,681	1,801
病床利用率(%)	65.2	73.5	8.3
平均在院日数(日)	14.4	13.4	▲1.0
医師数(人)	24	23	▲1
現金残高(百万円)	140	245	105
企業債残高(百万円)	2,176	2,176	0
【参 考】			
薬品費(百万円)	413.3	329.3	▲84.0
委託費(百万円)	393.5	362.6	▲30.9

(2) 経営指標の目標値が達成できなかった主な要因は、次のとおりである。

① 医業収支比率

医業費用は目標値を 213 百万円下回ったが、医業収益が入院・外来患者の減少により 355 百万円下回ったことにより、目標値を達成できなかった。

② 資金不足比率

目標値における不良債務額は 120 百万円と見込まれたが、実績における不良債務額は一時借入金の増加等により 307 百万円となったことから、目標値を達成できなかった。

③ 委託費対医業収益比率

委託費は計画値を 30.9 百万円下回ったが、比率算定の分母となる医業収益が目標値を 355 百万円下回ったことにより、目標値を達成できなかった。

④ 職員給与費対医業収益比率

職員給与費は計画値を 119 百万円下回ったが、比率算定の分母となる医業収益が目標値を 355 百万円下回ったことにより、目標値を達成できなかった。

⑤ 1 日当たりの入院患者及び外来患者数

診療圏の人口減少、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により入院患者数、外来患者数とも目標数を達成できなかった。

⑥ 医師数

常勤医師が 1 名である泌尿器科、整形外科の常勤医師の確保に向けて、福島県立医科大学等関係機関に対し継続的に派遣要請を行ったが、当該診療科の常勤医師の確保に至らなかった。

3 点検評価のまとめ

新公立相馬総合病院改革プラン達成のための令和 2 年度の取組状況について、別添資料 1 により事務局から報告があった。

次に、評価委員会において委員から出された病院事業に対する意見及び要望事項等の主なものは、別添資料 2 のとおりである。

以上、事務局からの報告等をもとに慎重に審査した結果、当委員会としての総合的な点検評価結果は、新改革プランに掲げる経営指標の令和 2 年度数値目標の一部に達成できない指標があったものの、新改革プランへの取組みについては一定の成果があったと認められた。

特に、新型コロナウイルス感染症拡大への対応については、陽性患者の受入れ、構成市町が実施する新型コロナウイルスワクチン接種事業への職員の派遣等積極的な取組みを行っており、大いに評価するものである。

今後についても、地域住民が必要とする医療を安定的かつ継続的に提供することが公立相馬総合病院の役割であることを再認識し、新たに改善計画を策定し、令和 3 年度以

降も経営健全化、患者サービスの向上に努められたい。

加えて、点検評価に際し、委員から出された意見・要望等についても、今後の病院運営にあたり十分留意し、事業執行されることを望むものである。